

地域医療を育てる会 情報紙 クローバー

# CLOVER



発行 代表 NPO法人地域医療を育てる会  
藤本晴枝  
http://iryousodateru.com/  
第79号 平成29年1月20日発行  
東金市東金1142「東金の家」内  
TEL:090-7634-7175

## 地域の健康文化を築く

### ～病院まつりに込められた願い～

病院は、病気やけがをした時に行くところですが、「健康な方も来てください」と開かれるのが病院祭りです。昨年9月に、旭中央病院が記念すべき第一回の病院まつりを開催しました。ただでさえ忙しい職員の方々が、なぜこのようなイベントを開くのでしょうか？

旭中央病院は千葉県内だけでなく全国に知られている病院です。病院まつりは9月24日に開かれました。会場は大きく分けて①講演が行われたメイン会場②展示・実演エリア③健康チェックエリア④体験エリア⑤屋外の展示エリア(新生児救急車や地震体験車)の4つから成り、付属施設の看護学校の学園祭や介護施設のお祭りなども開催されていました。案内のパンフレットを見ると実に盛りだくさんの内容で、体が一つでは足りないくらいです。中でも展示・実演エリアには子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の方が集まっています。

のパネル展示を筆頭に、実に22のブースが設けられていました。中でも人目を引いたのは災害と救急に関するエリアです。旭市は二〇一一年に被災して、病院も近隣市町村の第三次救急(※)を担っています。そうした背景を思い浮かべながら、災害・救急の展示コーナーへ。台所にあるものでできる応急処置や、ランプの造り方を教えてもらいました。

旭中央病院の歴史、地域医療連携への取り組み「

#### 展示・実演エリアでは…

心肺蘇生を学ぶコーナー



ラップと雑誌で骨折箇所を固定

には赤ちゃんの人形も。赤ちゃんがのどに物を詰まらせた時の蘇生法も学びました。

次に目を引いたのが、子どもも楽しめるコーナーです。ロボット支援手術のシミュレーターや、本物の超音波診断装置を使ったゲーム感覚のコーナー。私も内視鏡手術のシミュレーターを動かしてみましたが、かなり難しかったです。他にも、「こども薬局」が開設され、白衣を着た子どもたちが薬剤師さんのお仕事を体験していました。さらに病氣予防、介護、緩和ケア…それぞれ

のブースには専門の職員がいて、じっくりと話し込んでいる市民の姿も見られました。病院の中にある薬局のツアーも大変勉強になりました。小さな子どもは薬の量のわずかな間違いも

第1回 旭中央病院  
**病院まつり**  
—みんなで高める健康意識—  
2016年9月24日(土)  
10:00~14:00  
病院まつり実行委員長 挨拶

本日は、第1回「病院まつり」にご来場いただき、誠にありがとうございます。地域のみならず、当病院および連携医療機関のより良い交流を願って開催されたこの祭では、最新情報や楽しい企画が満載です。是非この機会に、東総の医療の現在と未来を見て、体験して、お楽しみください。

病院まつり パンフレットより

なぜ、病院まつりを  
する(こと)にしたのか

命取りになります。入院患者さんへの投薬間違いを防ぐなど、患者さんの安全のためにどのようなか、普段は見ることができない場所を見学しながら薬剤師さんの説明を聞きました。

病院まつりから一か月半あまり過ぎたところ、私達は病院まつり実行委員長の中津裕臣院長補佐にお会いしました。

すでに他の地域にまで知られている大きな病院が、なぜ、今、病院まつりを開くことになったのか、それを教えていただきたいかったです。

お話は十五年前にさかのぼります。当時旭中央病院のあるエリアは、県内でも死亡率が高い地域でした。中でも心臓と脳の障害で亡くなる方が多かったので、病气予防のための市民公開講座を始めたのだそうです。さらに三年前からは、病院職員が地域に向く出前講座を始めました。産業祭など地元イベントにも積極的に出展し、身体測定・健康相談・救急の講習などをおこなっています。「健康な生活について、住民の皆さんの意識を作っていきたいと続けています」と中津先生。

しかし、こうした場所に足を運ぶのはもともと健康に関心のある人がほとんど。そこで病院でお祭りを開催することを考えました。「私たちの病院そのものを地域の方々に知ってもらいたい、そして日ごろは病院に関わりがない、一般の方々が健康に對してどのような考えを持っているのかを知りたいと思ったのです」と中津先生。

### 無理のない準備と運営を

今まで出前講座などを企画してきた部署「健康づくり支援委員会」と、「病院まつり実行委員会」が病院まつりの企画を練りました。同時進行で、他の病院祭りを何度も視察に行つて、イメージを膨らませてくださいました。準備には一年半かかったそうです。企画に携わったスタッフは三十名ほど。当日参加する職員も手揚げ方式で募ったそうです。市民公開講座や出前講座のノウハウも役立ちました。付属施設の学校祭や文化祭等ともコラボします。プログラムも工夫しました。「医療以外の要素を取り入れられました。例えば中学校の吹奏楽部に演奏を頼んだりすることです。『うちの子が演奏するから行ってみようかな』と、病气・健康とは関係のない動機で足を運んでくれた人も多かったと思います」(中津先生)

### 確かな手ごたえ

当日は約二千三百人の来場者があったという病院まつり。アンケートもおおむね好評だったとのことでした。「地域には、病院とは縁のない生活をしている人が予想以上に多いことがわかりました」と中津先生。そ

のような人たちに健康に関心をもってもらうためには、お楽しみ要素がたくさんあるお祭りはうってつけだったとのことでした。

また、知識があいまいな方もいらつしやるようです。例えば、感染対策室が行った手洗いとマスクの実演では「手洗いが大事とは知っていたけど、そうやって洗うのですね」とおつしやつた人がいたそうです。日ごろ医療側では伝えたいつもりでも、受け取り方は千差万別なのです。それぞれのブースでは職員と市民が直接会話をすることが出来ます。健康講座と違って、来場者がすすんで知識や情報を得ることが出来るのも、お祭りの魅力なのかもしれませんね。

「何よりも、来場者の皆さんが楽しみながら知識を得たり、職員と交流をしたりできたことが大きいと思います。このような取り組みが、健康を中心とした文化を地域に育てていくのだと思います」と中津先生。この病院まつりによって、職員が他の部署の活動を知ったり、肩の力を抜いて住民と交流が出来たりと、職員にとっても楽しい一日だったそうです。

参加して楽しいから、また参加したくなる。先生のおつしやる「健康を中心とした文化」は、みんなの笑顔と共に育つていくのだと感じました。(藤本 晴枝)



救命処置を学ぶ市民

#### ※救急医療について

- 第一次救急：入院治療の必要がない軽症患者に対応する救急医療
- 第二次救急：入院治療や手術を必要とする重症患者に対応する救急医療
- 第三次救急：第二次救急まででは対応できない、一刻を争う重篤な患者に対応する救急医療

## コラム 東金市産業祭で「私の夢かるた」を開催しました

東金市健康増進課による健康づくり啓発活動の一環として、地域医療を育てる会発行の「私の夢かるた」をしました。当日は100名近い参加者があり、幼児から大人まで、幅広い年齢の方々がカルタを楽しみました。遊びながら健康づくりや街づくりなどを楽しく学ぶことが出来るカルタはとても好評でした。

